

資料 2021年度三者協働（学生・教員・職員）による
FD/SD 研修の最終報告会記録

関西大学教育開発支援センター
(Kansai University, Center for Teaching & Learning)

1. はじめに

FD/SD 研修は、大学設置基準改正に伴う SD の義務化に伴い、2017 年度から実施している学内研修であり、今回で 5 年目を迎える。企画・運営は教育開発支援センター「FD/SD 連携プロジェクト」が担い、研修参加者は三者（学生・教員・職員）協働による混合チームを編成して実施された（図 1）。



図 1 広報用チラシ

本研修は全 5 回で構成され、5 回終了後には計 8 グループによる最終報告会の機会を設けた。各回の講師は教育推進部の教員が担当し、それぞれの専門領域に基づく大学教育の現状や課題、今後の展望等について講演した。研修の参加者は、教育・学習環境づくりに関心を持つ本学の学生・教員・職員であった。

10 月 26 日から 12 月 21 日まで隔週火曜 14:40~16:10 の時間帯で実施した。今年度は、計 40 名の参加があり、それぞれの割合は、学生が 30%（12 名）、教員が 20%（8 名）、職員が 50%（20 名）であった。

本稿では、2022 年 1 月 18 日に開催した最終報

告会（図 2）において、各グループが報告した内容を記録として残す。



図 2 広報用チラシ

2. 各班の発表内容

全 8 班の発表内容（スライド）は以下のとおりである。

2.1. A 班「実践講義：KU コンサルティング～あなたの案が関大を変える！！～」

滝口 満理奈（文学部 3 年次生）、藤田 里実（教育推進部特別任用助教）、天野 航生（国際教育 G）、山崎 陽香（研究支援・社会連携 G）、幸森 法寛（学生相談・支援センター）

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を
設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～

A 班 藤田里実 先生
天野、滝口、山崎、幸森

授業名 2

実践講義：KUコンサルティング
～あなたの案が関大を変える！！～

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

4 詳細 7

時配	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入	第5回前半：深め活動1 今後のグループワークの実施方法、注意事項についての説明 中間報告までに、グループで課題の洗い出し、言語化・共有・課題設定、ブラッシュアップを実施する。 第1～3回の課題内容の振り返りを行う。	説明を早い段階（授業スタート20分以内）で概観できるように意識する。
展開	第5回後半～第7回：探求活動1～3 (フィールドワーク・グループワーク) グループで設定した課題について、現状分析や解決案を考えていく。 最初のフィールドワークが必要なのは、許可する。	LA・教員による中間説明、サポートを行う。 1～3回の学習内容を踏かし、グループワークに積極的に参加している。 探究方法 ・グループワーク活動において主体的に参画できる。 ・グループの貢献度（各学生個人&LAによるルーブリック評価）
まとめ	第8回：探求活動4 第9回 中間報告に向けての資料整理・発表準備。 次回（中間報告）について予告。	次回の中間報告についての説明を行う（グループワークの留意点など）。1グループあたりの発表時間、評価も行うこと等。

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 3

(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	本授業では、関西大学と連携で学部附属品のプロジェクト学習を行います。 本授業の特色は、必要に応じてオンラインで実施し、必要に応じて対面での授業を行うことである。 遠くまで参加できる。必要に応じて対面での授業を行うことも可能。 学習者は、授業参加の機会、必要に応じて対面での授業を行うことにより、課題をこなすことができる。その際、グループワークにて課題設定および課題解決策を講じていく。 最終的に、チームごとに課題および解決策のプレゼンを行い、その中で実現可能性の高いものをコンペティション形式で決めます。コンペティションの順位決定は、関大生や教職員が投票できるようにします。 本授業には、コンペティションで一位を獲得した解決策を、実際にグループ員・グループ内で役分担し、実行に移していきます。 なお、本科目は20名の人数制限を設けます。希望者が多い場合は、抽選で抽選します。 今回の発表では、希望者の投票について示していきます。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.2. B班「これまでの食、これからの食」
奥村 百香（文学部3年次生）、山木 良和（理工学研究科）、石崎 博志（文学部教授）、奥野 晴子（法文オフィス）、丹羽 俊有（情報推進G）

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～
B班 石崎先生、奥野、奥村、丹羽、山木

1 授業概要 4

(3) 学習成果と評価 (プログラムポリシー)	① 知識・技能 学生は教育の価値と価値観を育む能力を身に付けることができる。 ② 思考力・判断力・表現力等の能力 学習者自身がプログラムの内容を消化し、違う視点を持つ学生同士が協働的に学ぶことで、「思考力（論理力、人権力、社会力、国際力、芸術力、運動力）」を身に付けることができる。 ③ 主体的な態度 自分の学びに責任を持ち、周囲の課題に主体的に取り組むことができる。
(4) 到達目標	① 知識・技能 ・課題設定やプレゼンテーション技能を身に付ける。 ② 思考力・判断力・表現力等の能力 ・課題発見力や課題解決力、課題言語化能力を身に付ける。 ③ 主体的な態度 ・グループワーク活動において主体的に参画できる。
(5) 授業手法	① 教員による資料等を用いた説明や課題へのフィードバック ② 学生による学習の振り返り ③ 学生同士の意見交換（グループ・ペアワーク、ペーパー、ディスカッション、ディベート等含む） ④ プレゼンテーション（スライド、課題発表等含む） ⑤ 課題発表（プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む） ⑥ フィールドワーク

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

授業名 2

「これまでの食、これからの食」

2 授業計画 5

(6) 授業計画	全15回 第1回 オリエンテーション&グループ分け! 第2回 課題発見のフレームワークについて議論（思考ツール等） 第3回 課題解決のフレームワークについて議論（思考・分析の方法） 第4回 フィールドワーク（千原山キャンパス内の課題の調査） 第5回 探求活動1（発見した課題の検討） 第6回 探求活動2（発見した課題の検討） 第7回 探求活動3（課題の解決策の検討） 第8回 探求活動4（課題の解決策の検討） 第9回 中間報告 フィールドワーク 第10回 探求活動5（中間報告のフィードバックをもとに内容修正） 第11回 探求活動6（プレゼン準備） 第12回 探求活動7（プレゼン準備） 第13回 探求活動8（プレゼン準備） 第14回 コンペティション・結果発表 第15回 振り返り会、フィードバック
(7) 授業時間外学習	プロジェクトで良い結果を導き出すためには、グループでの主体的かつ許容的な授業外学習が必要である。関大LMSやクラウドツールを積極的に使い、正統的でグループ活動を盛り上げていきましょう。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 3

(1) 授業種別	演習(授業人数:25～30名 5グループ:4～5名ずつ)
(2) 授業概要	授業名「これまでの食、これからの食」 新型コロナウイルスの影響による日常の大きな変化の一つに「食」が挙げられる。感染症の流行は食品の輸出入や食のあり方に影響を与え、食や会食は感染リスクを高める原因となった。 本授業では、コロナウイルス流行の前後における「食」の変化について、食材の生産、製造、流通、調理、消費の一連の流れを取り扱う。学生が主体となり、グループワークを通して、課題発見・課題解決に取り組むことで、「食」について多面的・多角的に考え、また授業全体を通して、探究テーマに関する知識を身につけるとともに、違う視点を持った学生同士が協働して学ぶことで、思考力・表現力を働かせ、課題解決に役立つ実践的な力を身につける。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

3 成績評価の方法・基準・評価 6

(8) 方法	① 定時試験を行う。平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。 ・グループプレゼンテーション（40%） ・学生貢献度（30%） ・LAからの評価（30%）
(9) 基準・評価	① 知識・技能 ・課題設定やプレゼンテーション技能を身に付ける。 ・プレゼンテーションパフォーマンス（技術+資料）+プレゼンテーション内容（技術をもとに問題設定できているか） ② 思考力・判断力・表現力等の能力 ・課題発見力や課題解決力、課題言語化能力を身に付ける。 →発見する自分と他のグループワークにおける課題や参加し、最も適切な解答をグループで導き出せる。 →プレゼンテーション内容（中間・最終プレゼン時に各学生個人&LAによるルーブリック評価） ③ 主体的な態度 ・グループワーク活動において主体的に参画できる。 →グループの貢献度（各学生個人&LAによるルーブリック評価）
(10) フィールドワークの方法	中間報告・最終発表時には教員からのフィードバックと学生同士でのフィードバックを行う。また、各授業ごとに参加記録を確保する。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要		4
(3) 学位授与方針との関係 プログラムポリシー	① (知識・技能) ① 上記の要件の達成に必要と見られる、専門的および社会的実践と連携を促すことができる。 ② 「食」の意識、理解力、実践力の能力 学習成果評価プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「食」(自覚、人間力、社会力、実践力、革新力)を身に付けることができる。 ③ (主体的な学習) 自らの学びに責任を持ち、他者と共に学びを深められるようになる。	
(4) 到達目標	① (知識・技能) アフターコロナの社会の中で食料の生産・製造・流通・消費など一連の食の現状について知ることができる。 ② (能力) 理解力、実践力、実践力の能力 自らの専門分野や知識を生かし、異なる視点をもち学生と協働することで、1つのテーマに対し多角的な見方・考え方をすることができる。 ③ (主体的な学習) 学生自身が学びの主体という自覚をもち、個人思考やグループ活動を通して、課題設定・解決に取り組むことができる。	
(5) 授業手法	① 授業による資料を用いた説明や確認等のフィードバック ② 学生による学習の振り返り ③ 学生同士の意見交換 (グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む) ④ フレッシュセッション (スピーチ、質疑応答等含む) ⑤ 発表資料作り (プロシヤクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む) ⑥ その他 (TAICによるサポート)	

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

4 詳細 (まとめ)		9
展開 第3回 第4回 第5回	<課題を見つけるグループワーク> 第3回 テーマの決定(分組の決定) ・「食」の意識、理解、実践、消費というテーマのカテゴリー別に、学生を3つのグループに分ける。 第4回 資料の整理とデータ分析 ・課題で学ぶべき内容を、グループで文庫やインターネットを用いてさらに探求し、協働進捗の「食」における課題を見つける。 第5回 発表資料作り ・各人が自分の担当を話し、グループでの発表資料を作成	<前回ふりかえり> グループワークがうまく進んでいないグループには配慮する。 ・授業時間外で各自が調べたことを共有し、padletやgoogleドライブなどのツールがあることを伝える。 <閉講(主体性)> ・「グループメンバーによる質疑応答」：各自が自分以外のメンバーを評価したペーパーを提出する
まとめ 第6回	<中間発表→フィードバック> ・各グループ10分程度の発表を行う ・各グループの発表について、意見や質問を伝える。またはコメントカードに記入する ・教員のフィードバックを聞く	<閉講(思考力・表現力)> ・教員は発表を評価する <前回ふりかえり> ・授業のグループワークの進捗について、「解決策を見つけるワーク」の進捗を確認する

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2 授業計画		5
(6) 授業計画	第1回：講義 (概要説明) 第2回：講義 (本格的な講義) (個人ワーク) 第3回：課題を見つけるグループワーク 第4回：課題を見つけるグループワーク 第5回：課題を見つけるグループワーク 第6回：中間発表→フィードバック 第7回：解決策を見つけるグループワーク 第8回：ゲストスピーカー講演会 第9回：解決策を見つけるグループワーク 第10回：中間発表→フィードバック 第11回：解決策を見つけるグループワーク 第12回：解決策を見つけるグループワーク 第13回：発表 (前半グループ) 第14回：発表 (後半グループ) 第15回：全体のフィードバックと意見交換 最終レポート提出	「食」の5つのカテゴリー <生産・製造・流通・消費> *このカテゴリーでグループ分けします
(7) 授業時間外学習	・新聞やテレビ、書籍などの情報媒体を利用して、日常的に情報にアクセスすること。 ・グループ活動が中心であるため、メンバーで集まって議論するなど必要に応じて必要となる場合がある。	

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 その他		10
(11) 参考文献	① 大浦裕二・佐藤和恵(2021)『フードビジネス論「食と農」の最先端を学ぶ! ミネソタ大学』 ② 西川直(2008)『テイクアウト 食料の自給自足』 ③ 金田守伸(2020)『和食の地理学：あの美味を生むのほとんどは土地のおかげ! 平凡社新書』 ④ 菊田正士(2016)『食と日本人：食と農の経済学』岩波新書 ⑤ 関西大学農学部食料農業システム学科(2016)『知っておいしく食・農・環境：はじめての食と農の教室』1) 沼田聖 ⑥ 高倉浩夫・辻原 裕子 (2015)『和食とは何か! (和食文化ブックレット1)』岩波文庫 ⑦ 井中由美(2020)『食でつながる食の未来』(食の未来を拓く) 角川出版 ⑧ 平賀純(2021)『食べものから学ぶ食文化』岩波ジュニア新書 ⑨ 小口広太(2021)『日本の食と農の未来：持続可能な食と農を考える』光文社新書	
(12) その他	① 自らは大規模な授業あり	

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

3 成績評価の方法・基準・評価		6
(8) 方法	・定期試験を行わず、平常試験 (小テスト、レポート等) で総合評価する。 レポート50% (個人ワーク20%、最終レポート30%)、グループ50% (メンバーからの評価20%、発表30%)	
(9) 基準・評価	① (知識・技能) コロナ禍・アフターコロナにおける「食」の現状、問題について学んだことを自分の言葉で整理し、まとめることができる。 ② (能力) 理解力、実践力、実践力の能力 グループ活動において設定した課題に対し、自身の意見をもち多角的・多面的な見方を発表できる。 グループで協働し、課題を解決することができる。 ③ (主体的な学習) 進捗する課題や情報との議論に積極的に関与しようとする。 *グループワークにおける貢献度による評価	
(10) フィードバックの方法	グループワークの展開や、発表後に質問、フィードバックをするほか、簡易MSで質問などを受けつけて、それ最終レポートの中から、学生に目を通してもらいたいものを選び、教員のコメントを付けて簡易MSにアップする。	

4 授業の詳細 (導入～まとめ)		7
(6) 授業計画	第1回：講義 (概要説明) 第2回：講義 (本格的な講義) 第3回：課題を見つけるグループワーク 第4回：課題を見つけるグループワーク 第5回：課題を見つけるグループワーク 第6回：中間発表→フィードバック 第7回：解決策を見つけるグループワーク 第8回：ゲストスピーカー講演会 第9回：解決策を見つけるグループワーク 第10回：中間発表→フィードバック 第11回：解決策を見つけるグループワーク 第12回：解決策を見つけるグループワーク 第13回：発表 (前半グループ) 第14回：発表 (後半グループ) 第15回：全体のフィードバックと意見交換、最終レポート提出	導入 展開 まとめ

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

4 詳細 (導入～展開)		8
導入 第1回 第2回	<講義> ・「食」の意識、理解、実践、消費というテーマのカテゴリー別に、学生を3つのグループに分ける。 第3回 第4回 第5回	<前回ふりかえり> グループワークの進捗を確認する。 ・授業時間外で各自が調べたことを共有し、padletやgoogleドライブなどのツールがあることを伝える。 <閉講(主体性)> ・「グループメンバーによる質疑応答」：各自が自分以外のメンバーを評価したペーパーを提出する
展開 第3回 第4回 第5回	<課題を見つけるグループワーク> 第3回 テーマの決定(分組の決定) ・「食」の意識、理解、実践、消費というテーマのカテゴリー別に、学生を3つのグループに分ける。 第4回 資料の整理とデータ分析 ・課題で学ぶべき内容を、グループで文庫やインターネットを用いてさらに探求し、協働進捗の「食」における課題を見つける。 第5回 発表資料作り ・各人が自分の担当を話し、グループでの発表資料を作成	<前回ふりかえり> グループワークの進捗を確認する。 ・授業時間外で各自が調べたことを共有し、padletやgoogleドライブなどのツールがあることを伝える。 <閉講(主体性)> ・「グループメンバーによる質疑応答」：各自が自分以外のメンバーを評価したペーパーを提出する

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.3. C班「関西大学の未来に繋がるSDGs」

赤坂 元崇 (経済学部3年次生)、矢田 尚也 (教育推進部特別任用助教)、木下 萌加 (地域・高大連携G)、栗栖 昇己 (入試広報G)、森岡 友紀 (授業支援G)

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～

C班 氏名 赤坂 元崇
木下 萌加
栗栖 昇己
森岡 友紀
矢田 尚也

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

授業名

2

関西大学の未来に繋がるSDGs

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 3

(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	テーマ：関西大学の未来に繋がるSDGs 内容：SDGs (sustainable development goals) という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の基礎を学習し、関西大学のSDGsの取り組み(事例)を理解する。その上で、「関西大学の未来に繋がるSDGs」を探求する。 組入学題、グループワーク、フィールドワークを通じて、上記のテーマについて理解と実践力を深めていく。最終発表では、各グループの興味・関心に従って特定のテーマを定め、プレゼンテーションを行う。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 4

(3) 学習目標と科目との関係 (プログラムポリシー)	① (知識・技能) 学士課程教育の基礎となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。 ② (思考力・判断力・表現力の能力) 学術的探究活動やプログラムの開発を促し、遠く視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「専断力 (自律力、人権力、社会力、想像力、革新力)」を身に付けることができる。 ③ (主体的な態度) 自分の学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。
(4) 到達目標	① (知識・技能) SDGsの背景にある理念を理解し、その知識を実践に役立てることができる。 ② (思考力・判断力・表現力の能力) SDGsについて、世の中の意見を尊重し、自分の考えを整理して、新たな価値を創出する。 ③ (主体的な態度) 自ら課題を発見し、主体的かつ柔軟に取り組むことができる。
(5) 授業手法	本資料による資料を用いた説明や課題へのフィードバック ① 学生同士の意見交換 (グループ・ディスカッション) ② プレゼンテーション ③ 課題解決 (プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む) ④ フィールドワーク

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2 授業計画 5

(6) 授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 SDGsについて (1) (17の目標目標について) 第3回 SDGsについて (2) (日本のSDGsの取り組みについて) 第4回 SDGsについて (3) (関西大学のSDGsの取り組みについて) 第5回 個人発表 (課題発表) 第6回 個人発表 (課題発表) 第7回 フィードバック・グループ分け・初グループワーク 第8回 グループワーク 第9回 フィールドワーク (SDGs実施の企業訪問) 第10回 グループワーク 第11回 中間発表 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14~15回 最終発表
(7) 授業準備学習	第5~6回の個人発表及び第14・15回の最終発表に向けて、課題を配布するレジュメや資料を読み込み、紹介した参考文献に目を通すなど、日ごろから得意に心がけること。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

3 成績評価の方法・基準・評価 6

(8) 方法	① 定期試験を行わず、平常試験 (小テスト・レポート等) で総合評価する。 ・定期試験 (20%) ・個人発表 (30%) ・最終発表 (50%)
(9) 基準・評価	① (知識・技能) 深く理解できているかを評価する。 ・卒業論文に用いる論文、情報等を整理しているかを評価する。(20%) ② (思考力・判断力・表現力の能力) SDGsについて、自分で考える考え、実行する力を身に付けているかを評価する。 ・グループワークでの協働性、論理性、表現力を評価する。(50%) ③ 主体的な態度の観点 ・自分の学習振り返り、適切な改善点を挙げることができているかを評価する。(30%)
(10) フィードバックの方法	・第7回の授業中に個人発表のフィードバックします。 ・グループワークの進行具合によって随時に対応します。 ・最終発表があればメール・LMSで対応します。

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

4 詳細 第4回SDGsについて (3) (関大の取り組みについて) 7

時期	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入	教員の活動：・これまでの説明 ・授業目的の説明 ・関大のSDGsに関する取り組みに関する説明 学生の活動：・教員の説明に対して理解する ・関大の学生と自分の考えを共有する	【留意点】 ・教員全体がざわさわし出す可能性があるため、話し出す所では教員側が注意を向くように気をつける。 【評価】 ・両側の学生と協力しているか否か (協働性)。
展開	教員の活動：・バファを用いて関大の取り組み (KANDAI for SDGs推進プロジェクト) について解説 ・学生からの質問が対応し課題に対応する 学生の活動：・学生と互いできる取り組みについて考える ・レジュメの穴埋め形式に取り組む ・質問を積極的に考える	【留意点】 ・学生の反応を見つ、質問を適切に受け止める。 【評価】 ・授業内容に関連した質問を複数考えたか否か。
まとめ	教員の活動：・関大のSDGsに関する具体的な取り組みを紹介 ・ミニツツペーパーの役割を説明する。 ・個人発表当日の注意を説明 ・学生からの質問に対応 学生の活動：・次日の個人発表に向けた準備を始める ・不備点等があれば随時質問 ・授業内容を振り返る	【留意点】 ・個人発表当日の準備や準備方法を説明する。 ・学生の進捗状況を確認し、不要要素を取り除く。 【評価】 ・ミニツツペーパーの内容が深いか否か。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.4. D班「自分で作る「人生の手引き」」

山本 瑞稀 (社会学部3年次生)、大西 洋 (ライティングラボ アカデミックアドバイザー)、今村 美月 (教務事務G)、山 知希 (国際プラザG)

2021年度FD/SD研修プログラム

自分で作る「人生の手引き」

D班
今村美月・大西洋・西山知希・山本瑞稀

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

授業名の案・キーワード 2

メンバー	授業名のキーワード・案
今村	教養を備える・豊かで余裕のある暮らし・暮らしの手引き
大西	生き方・探究・創造・社会(社会人)・活動・自己・人生入門・とてめになる授業 生活・リア充
西山	人生・よりよい人生に・人生を豊かに・カネと政治とその他いろいろ
山本	有意義・人生・自分たちで見つける・自分たちで作り上げる・気になる
候補	自分で見つける人生入門・自分で作るよりよい人生

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 3

(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	【本学】について学生が気になることを課題として設定し、その答えを深めながら、深層的な課題解決活動を行う。具体的には、次のような「大学生活で学ぶ機会があまりないが、人生を有意義に過ごす上での重要な事柄」を課題(テーマ)として設定することを想定している。 テーマの例： ・大学生活の過ごし方：単独のとり方・卒業までの計画作成 ・お金の貯蓄と消費：奨学金・生活費・雑費 ・旅行を楽しむため、観光を楽しむための知識：美術館の展示作品の見方を知る ・意思の決定方法：就職・進学 ・ほかにもいろいろ 方法の例： フィールドワークや実演(グループを交えながら3回) 3~6日：答え出しの宿題を終わらす(体験する) 7~10日：探し出したことを発表する(報告し、振り返る) 11~14日：見つけた答えを完成させる(行頭に修す)

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要 4

(3) 学習目標と科目との関係 (プログラムポリシー)	① (知識・技能) 学士課程教育の基礎となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。 ② (思考力・判断力・表現力の能力) 学術的探究活動やプログラムの開発を促し、遠く視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「専断力 (自律力、人権力、社会力、想像力、革新力)」を身に付けることができる。 ③ (主体的な態度) 自分の学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。
(4) 到達目標	① (知識・技能) 教養ある人間として社会で生きていくための初歩的かつ幅広い知識を身につけるとともに、費用に対しての適切な方法を学ぶ。 ② (思考力・判断力・表現力の能力) 社会で生き いくうえで、自分で考え、判断材料を身につけ、知識や経験に基づいて判断できるようにする。 ③ (主体的な態度) 自分の約束を言葉にして、それを実践するための行動を起こす。同時に、メンバーとの共有や連携を行うことによる。
(5) 授業手法	① 本資料による資料を用いた説明や課題へのフィードバック ② 学生による学習の振り返り ③ 学生同士の意見交換 (グループ・ディスカッション、ディベート等含む) ④ プレゼンテーション (ストーリー、課題解決発表会) ⑤ 課題解決 (プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む) ⑥ フィールドワーク

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2 授業計画

5

(6) 授業計画	1	これまでの人生の経験(過去)から今後(今)へルーブリックとは?	8	グループごとに語る経験でも新鮮でもOK
	2	ルーブリック作成: 学生がテーマを決定する作ったルーブリックを完成	10	グループごとに語る経験でも新鮮でもOK
	3	学生それぞれの「いまあること」によってルーブリック分け	11	発表準備
	4	異なっていることと認めざるをえない	12	グループでそれぞれの内容をプレゼン(各自1-2分発表)
	5	どこへ行けば異なることが解決するの考える	13	もう一度最初のグループに戻る(朝田までの準備(ワールド・カフェ形式))
	6	フィールドワークの計画・スケジュールを考案する	14	各自で準備(各自の準備)
	7	フィールドワーク 異なることと解決する	15	これからの人生のイントロダクション
	8	学生それぞれの「いまあること」によってルーブリック分け(1-2分発表)		
(7) 授業時間外学習	常に自己と社会を見つめること。			

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

学生が作成するルーブリックの例: 山本

10

	4+	4	3	2	1
知識・技能	疑問に対して、知識を応用して、進んでアプローチしていた。	疑問に対して、知識を活用し、アプローチしていた。	疑問に対して、知識を活用し、アプローチしていた。	疑問に対して、アプローチしていた。	疑問に対して、アプローチしようとしていなかった。
思考力・判断力・表現力	問題や課題の解決方法を自分で考え、その内容をプレゼンテーションにおいて発表しようとしている。	問題や課題の解決方法を自分で考え、その内容をプレゼンテーションにおいて発表しようとしている。	問題や課題の解決方法を自分で考え、その内容をプレゼンテーションにおいて発表しようとしている。	問題や課題を認識し、プレゼンテーションにおいてアウトプットできた。	問題や課題を解決できず、プレゼンテーションでアウトプットできなかった。
主体的な態度	追求・解決する過程において、相手の立場を考慮し、コミュニケーションを積極的に取っていた。	追求・解決する過程において、相手の立場を考慮し、コミュニケーションを積極的に取っていた。	追求・解決する過程において、相手の立場を考慮し、コミュニケーションを積極的に取っていた。	追求・解決しようとした。	追求・解決しようとしなかった。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

3 成績評価の方法・基準・評価

6

(4) 方法	① 定規評価 (筆記試験) の成績で評価する。 ② 定規評価 (筆記試験) と平均成績で総合評価する。 ③ 定規評価 (筆記試験) と平均成績 (レポート) の成績で評価する。 ④ 定規評価 (筆記試験) と平均成績 (レポート) の成績と平均成績で総合評価する。 ⑤ 定規評価 (筆記試験) と定規評価 (筆記試験) による学力評価で総合評価する。 ⑥ 定規評価 (筆記試験) と定規評価 (筆記試験) による学力評価と平均成績で総合評価する。 ⑦ 定規評価 (筆記試験) と定規評価 (筆記試験) による学力評価と平均成績で総合評価する。
(9) 基準・評価	① (知識・技能) 学生が各自で作成したルーブリックと自己評価に照じて、教員が評価を行う ② (思考力・判断力・表現力) の観点 学生が各自で作成したルーブリックと自己評価に照じて、教員が評価を行う ③ (主体的な態度) 学生が各自で作成したルーブリックと自己評価に照じて、教員が評価を行う
(10) フィードバックの方法	プレゼンテーション終了後は教員と他グループの学生からフィードバックをもらう。 また、達成感が作成したルーブリックに照じて目標達成度と自己評価・教員からの評価を行う。

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 詳細

11

時配	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入	・自己紹介 (10分) ・これまでの人生の経験(過去)から今後(今)へ (20分) ・ルーブリックについて説明 (15分)	
展開	・ワーク1: (過去で一番楽しかったこと・楽しかったことなど色々) (10分) ・ワーク2: (現在一番楽しんでいること・楽しかったことなど色々) (10分) ・ワーク3: (今から未来を楽しく過ごす) (10分) ※①-③はグループワーク ・Google Formsにワークで出したことを返して投稿 (15分) → 匿名で全体に共有	シニアなものの話NG
まとめ	・まとめ+次回までの課題 (5分) → 次回以降の課題 (5分)	

学生が作成するルーブリックの例: 今村

7

	4+	4	3	2	1
知識・技能	教員から人間としての知識を得て、自分の知識を身につけ、質問や課題を解決する。	教員から人間としての知識を得て、自分の知識を身につけ、質問や課題を解決する。	教員から人間としての知識を得て、自分の知識を身につけ、質問や課題を解決する。	教員から人間としての知識を得て、自分の知識を身につけ、質問や課題を解決する。	教員から人間としての知識を得て、自分の知識を身につけ、質問や課題を解決する。
思考力・判断力・表現力	自分で考え、問題解決をする。	自分で考える姿勢を持ち、グループの仲間と協力して問題解決をする。	自分で考える姿勢を持ち、グループの仲間と協力して問題解決をする。	自分で考える姿勢を持ち、グループの仲間と協力して問題解決をする。	自分で考える姿勢を持ち、グループの仲間と協力して問題解決をする。
主体的な態度	自らの学びに責任を持ち、課題に取り組むことができる。	自らの学びに責任を持ち、課題に取り組むことができる。	自らの学びに責任を持ち、課題に取り組むことができる。	自らの学びに責任を持ち、課題に取り組むことができる。	自らの学びに責任を持ち、課題に取り組むことができる。

Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.5. E班「SDGsを学び、身近な課題を解決する」

増井 晴菜 (外国語学部3年次生)、羅 瑞敏 (文学部1年次生)、多田 泰紘 (教育推進部非常勤講師)、岡本 康平 (政外オフィス)、森山 智世 (秘書課)

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を設計してみよう

~コロナ禍での経験を踏まえて~

E班 岡本、多田、増井、森山、ラズビン



KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

学生が作成するルーブリックの例: 大西

8

	4+	4	3	2	1
知識・技能	今後の人生で必要な知識や技能を身に付けている。	今後の人生で必要な知識や技能を身に付けている。	今後の人生で必要な知識や技能を身に付けている。	今後の人生で必要な知識や技能を身に付けている。	今後の人生で必要な知識や技能を身に付けている。
思考力・判断力・表現力	現状の問題点を考え、解決策を提案できる。	現状の問題点を考え、解決策を提案できる。	現状の問題点を考え、解決策を提案できる。	現状の問題点を考え、解決策を提案できる。	現状の問題点を考え、解決策を提案できる。
主体的な態度	現状を分析した上で、自身の人生をよりよくする計画を立てることができる。	現状を分析した上で、自身の人生をよりよくする計画を立てることができる。	現状を分析した上で、自身の人生をよりよくする計画を立てることができる。	自身の人生をよりよくしようとする姿勢がある。	自身の人生をよりよくしようとする姿勢がある。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

授業名

2

学生が作成するルーブリックの例: 西山

9

	4+	4	3	2	1
知識・技能	社会で生きていくための、初歩的かつ幅広い知識があり、疑問への正しいアプローチ方法を知っている。	社会で生きていくための、初歩的かつ幅広い知識があり、疑問への正しいアプローチ方法を知っている。	社会で生きていくための、初歩的かつ幅広い知識があり、疑問への正しいアプローチ方法を知っている。	社会で生きていくための、初歩的かつ幅広い知識があり、疑問への正しいアプローチ方法を知っている。	社会で生きていくための、初歩的かつ幅広い知識があり、疑問への正しいアプローチ方法を知っている。
思考力・判断力・表現力	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。
主体的な態度	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。	自分の興味・関心に基づいて、適切な材料を見つけて、考え、正しい判断ができる。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright ©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

SDGsを学び、身近な課題を解決する

1 授業概要	
(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	<p>この授業では、SDGsについて学びます。</p> <p>授業は入るまでのパートに分かれており、第1パートではSDGsについてレクチャーを受け、知識を修得します。第2パートでは、授業を通して養った知識をグループワークに取り入れ、チームビルディングと協働スキルを磨き上げます。第3パートでは、各グループで議論・決定したSDGsのテーマに、フィールドワークに取り組み、課題解決を目指します。最後にグループで解決策のプレゼン発表を行います。</p> <p>この授業、グループワーク、フィールドワーク、プレゼン発表を通して、SDGsについての理解を深め、グループで協力して課題を解決する能力を向上させます。</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 その他	
(11) 授業の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを取り入れています。 ・フィールドワークの際は、動きやすい服装をしてください。 ・グループでの議論が中心となりますので、メンバーへの敬意が不可欠なようにしてください。欠席する際は、グループのメンバーにその旨をお伝えください。 ・授業外に質問がある場合は、Oへどうぞ。
(12) 参考	<ul style="list-style-type: none"> ・「関西大学SDGsの取り組み」 https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/ ・「カードゲームSDGs2030で学ぶSDGs研修会」 https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/activities/detail/entry054634.html <p>その他、必要に応じて授業内で紹介します。</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要	
(3) 学修目標と到達目標	<p>① (知識・技能) 学士課程教育の基盤となる幅広い専門的および社会的知識と技能を身に付けることができる。</p> <p>② (思考力・判断力・表現力等) 学部専攻領域等に関する知識を深め、学ぶ視点を持つ学生同士が協働的に学ぶことで、「思考力(自律性、人間力、社会力、想像力、運動力)」を身に付けることができる。</p> <p>③ (主体的な態度) 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。</p>
(4) 到達目標	<p>① (知識・技能) SDGsについて説明できる。その知識について、述べてまとめることができる。</p> <p>② (思考力・判断力・表現力等) SDGsについて語り、意見を述べ、自分や相手と口頭発表することができる。</p> <p>③ (主体的な態度) 自分たちで課題を話し、解決策を提案できる。</p> <p>④ (主体的な態度) 各グループの解決策を実行し、発表することができる。</p> <p>⑤ (主体的な態度) グループで協力し、課題解決に取り組むことができる。</p> <p>⑥ (主体的な態度) 自主的に、社会課題に取り組むことができる。</p>
(5) 授業手法	<p>① 教室による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック</p> <p>② 学生による学修活動が中心</p> <p>③ 学生同士の意見交換(グループ・ペアワーク、ディスカッション等含む)</p> <p>④ プレゼンテーション(スピーチ等含む)</p> <p>⑤ 実践的学習(課題解決学習等含む)</p> <p>⑥ フィールドワーク</p> <p>⑦ その他(「SDGs」のレクチャー)</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.6. F 班「アフターコロナ 学びの在り方を考える～学習者から教育者に～」

井上 優 (文学部3年次生)、塩路 貴之 (システム理工学部3年次生)、金井 映 (研究支援・社会連携G)、谷 文翔 (初等部・中等部・高等部事務室)

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を
設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～

F班 氏名 井上 優
塩路 貴之
谷 文翔
金井 映

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2 授業計画	
(6) 授業計画	<p>【第1パート：SDGsの知識の修得】</p> <p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 SDGsの定義を学び、知識をつくる</p> <p>3 回目 SDGsの定義を学び、知識をつくる</p> <p>4 回目 SDGsの定義を学び、知識をつくる</p> <p>【第2パート：チームビルディングと協働スキルの獲得】</p> <p>5 回目 ミニグループワーク SDGsの定義を学び、意見交換を共有し、どの課題をテーマにするかを決める。</p> <p>6 回目 ミニグループワーク 各グループが決め、チームビルディングも目的としている。</p> <p>7 回目 ミニグループワーク</p> <p>8 回目 中間発表(どのテーマを進めるか、また決定した発表について発表。)</p> <p>【第3パート：各グループでフィールドワークに取り組む】</p> <p>9 回目～13回目 グループワーク</p> <p>10回目 フィールドワーク</p> <p>11回目 フィールドワーク</p> <p>12回目 フィールドワークのまとめ、課題への解決策を話し合う</p> <p>13回目 プレゼンの準備</p> <p>14回目 プレゼン</p> <p>15回目 総括、振り返り、フィードバック</p> <p>(7) 授業時間外学習 SDGsの調査で学んだ内容を整理し、SDGsに関連する資料を用いて、各自で学習・探究を行う。必要に応じて、グループで相談し各自フィールドワークを行う。</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

3 詳細		
時配	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入	前門授業等のフィードバックを行う。 授業のオリエンテーションを行う。	留意点：グループ内で進捗状況を確認し、共有する。
展開	各グループで目標と役割を決め、フィールドワークを行う。	留意点：フィールドワークを行うため、動きやすい服装で来ること。 詳細：事前にフィールドワークを行っているか、グループに出席しているか。
まとめ	授業の感想や質問、課題等をミニッツペーパーに記入する。	評価：主体的に授業に取り組んでいるか。

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

4 成績評価の方法・基準・評価	
(8) 方法	<p>の実践的学習を行う。平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。</p> <p>授業後試験(ミニッツペーパー・クイズ)：20%</p> <p>レポート課題：20%</p> <p>授業内プレゼン発表：40% (中間プレゼン15%、最終プレゼン25%)</p> <p>授業参加度：20%</p>
(9) 基準・評価	<p>① (知識・技能) ・SDGsについて述べてまとめることができたか。(第7回までの授業後試験で評価する)</p> <p>・フィールドワークを通して情報量ができたか。(第8回以降の授業後試験で評価する)</p> <p>② (思考力・判断力・表現力等) ・SDGsについて、自分自身で考え、課題と課題を、文章と口頭で発表することができたか(中間・最終プレゼンと中間レポートで評価する)</p> <p>③ (主体的な態度) ・他人の説明を聞き、グループで議論できたか(授業参加度で評価する)</p>
(10) フィードバックの方法	<p>・ミニグループワーク・プレゼンの際、他の受講者からディスカッションのルーブリック表を用いて、フィードバックする。</p> <p>・授業中のミニッツペーパーのフィードバックを次回授業時参照に行う。</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

授業名

アフターコロナ 学びの在り方を考える
～学習者から教育者に～

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要	
(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	<p>本講義では、コロナ禍で学んだこと、経験したことを通して、「学び」の在り方について考えていく。アフターコロナの今日、2021年度春季学期授業「学生生活に関するアンケート」について、「学び」の制約が及ぼしていること、このアンケートを基に、改善できる領域を追求する。最終的にどのような教育が必要とされるかを検討し、5年後、10年後の教育の未来の授業を提案する。</p> <p>普通学生が、大学授業を見直すことは必要ないが、この講義では、各学生が自らの思い、由ら「学び」を深めるために思考力、想像力、実行力を超える。</p>

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

1 授業概要		4
(3) 学位授与方針との関係 (プログラムポリシー)	① (知識・技能) 学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。 ② (思考力・判断力・表現力等の能力) 学部設置教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「発動力(自律力・人脈力、社会力、積極力、革新力)」を身に付けることができる。 ③ (主体的な態度) 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。	
(4) 到達目標	① (知識・技能) ・コロナ禍で拡大された学習ツールについて知識を深める。 ・それぞれのツールの得意な使いこなしを身に付ける。 ・新型コロナウイルスの世界的な流行により変化した働き方について知識を身に付ける。 ② (思考力・判断力・表現力等の能力) ・授業、生活に関するアンケートの結果を分析し、改善点、評価できる点を自分の言葉で表現できる。 ・新型コロナウイルスの世界的な流行により変化した働き方を体系的に分析する。 ③ (主体的な態度) ・他人の考えを整理し、グループ内で構造的に共有する。 ・発表を聞いて、適切な質問をする。(招待制)	
(5) 授業手法	① 動画による資料を用いた説明や課題等へのフィードバック ② 学生による学問的論議のやり取り(目的の授業) ③ 学生同士の意見交換(グループ・ベアワーク、ディスカッション、ディベート等含む) ④ プレゼンテーション(スピーチ、授業発表等含む) ⑤ 課題解決(プロジェクト学習、課題解決学習、ケーススタディ等含む)	

2 授業計画		5
(6) 授業計画	① オリエンテーション ② コロナ禍について(課題) ③ 今後の授業方法について(グループと評価方法) ④ 授業プログラムの分析と現状の把握 ⑤ 授業プログラムの「特徴の授業」とは、グループワーク ⑥ 机上についてグループワーク(アンケート結果を相互交換) ⑦ 机上についてグループワーク(大まかな方向性を決める) ⑧ 机上についてグループワーク(詳細について) ⑨ 中間報告(padlet)でのフィードバック(ツクヤウ) ⑩ グループワーク(改善点修正) ⑪ グループワーク(グループ同士で発表を行い、お互いにフィードバックを行う) ⑫ グループワーク(他グループから得たフィードバックをもとに改善案を案) ⑬ グループワーク(発表最終準備・リハーサル) ⑭ 発表・評価 ⑮ 発表・評価 まとめ	
(7) 授業時間外学習	・ 資料、情報収集 ・ 課題点を考え、ディスカッションの準備。 ・ グループを用いたオンライン授業の理解。	

3 成績評価の方法・基準・評価		6
(8) 方法	定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 個人レポートを小テストとみなし、評価する。 グループワーク発表およびグループワーク発表相互評価内容を評価する。	
(9) 基準・評価	① (知識・技能) ・ レポートの作成 発表等まとめ ・ 宿題に基づいた主体 個人レポート 50% ② (思考力・判断力・表現力等の能力) ・ コミュニケーション ・ 質問に対して適切な思考力および発言力 ・ グループワークの発表完成度 グループ発表 25% ③ (主体的な態度) ・ 積極性 ・ 協働性 ・ 出席性 ・ コミュニケーション ・ 質問に対して適切な発言力および発言力 グループ発表の相互評価 25%	
(10) フィードバックの方法	個人レポートにLMS等の機能を用い、内容に関してコメント。 グループ発表の中間報告後、padletで改善点コメントを共有。	

4 その他		7
(11) 教材等	・ 教科書はなし。参考書等は授業時に指示・配布。 ・ 2021年度特許 授業・学生生活に関するアンケート	
(12)		

5 詳細			8
時期	学習内容と活動	授業中の留意点・評価	
導入 第4回	「2021年度卒業生授業・学生生活に関するアンケート」のデータを基に、現状について理解する。事例等を参考に、「コロナ禍を評し、学びのあり方を考える。	精神収束力 理解度 データを基に、問題点に対する知覚力	
展開	コロナウイルス感染症の蔓延以前と現在後での変化を語る。 現状を含め、これからの大学という教育の在り方について個人で思考する。ミニッツペーパーに記入する。 グループワークを踏まえてミニッツペーパーの編集・修正	分析・まとめに行き詰っている学生のフォロー 理解度 グループワークでの発言力、聴く力 グループワークで行き詰っているグループが他グループのアドバイスを受ける。(教員が他グループのワークの進捗を)分かっておき、全員がグループワークに参画しやすい状態にしていく。	
まとめ	・ 各チーム発表(チームで出した意見) ・ 現状をインプットした上で、グループワークを行う(改善点修正) 個人の見え、発表をレポートとして提出(展開)で作成したミニッツペーパー・修正後のミニッツペーパーは授業後編集・印刷時間を設ける。各目、考えをまとめて話し、LMSにて提出。	授業の満足度 個人の見え グループワークでの積極性	

2.7. G 班「本当のコミュニケーション学へ知っているつもりのあなたへ」
花房 優奈 (外国語学部 3 年次生)、久保 まな (広報課)、中島 郷 (経商オフィス)、與田 祐大 (入試・高大接続 G)

2021年度FD/SD研修プログラム
三者協働でこれからの授業を設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～
G班 氏名
久保 まな
花房 優奈
與田 祐大
中島 郷

授業名

本当のコミュニケーション学
～知っているつもりのあなたへ～

1 授業概要		3
(1) 授業種別	演習(1コマ後にフィードバック)	
(2) 授業概要	私たちの日常生活において欠かせないのが「コミュニケーション」です。 コミュニケーションにおいて苦手意識を克服したい...コミュニケーションを本質的に理解したい... ... と考えるあなたへ贈ります。「コミュニケーション」とは一体何でしょうか。 誰に対しても難なく意思疎通することでしょうか。 学生同士の連携を通じて、多面的に「コミュニケーション」を学ぶことにより、理解にとどまらず、日常での発揮、発信を目的とします。 特参加意欲のある学生への受講を推奨します。	

1 授業概要		4
(3) 学位授与方針との関係 (プログラムポリシー)	① (知識・技能) 学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。 ② (思考力・判断力・表現力等の能力) 学部設置教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「発動力(自律力・人脈力、社会力、積極力、革新力)」を身に付けることができる。 ③ (主体的な態度) 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。	
(4) 到達目標	① (知識・技能) ・ コミュニケーションの多面性を理解する ・ 実例、事例のコミュニケーションの知識、一般性を理解する ② (思考力・判断力・表現力等の能力) ・ コミュニケーションの多面性を理解し、解決する ・ グループを協働して学問的の能力を身に付ける ③ (主体的な態度) ④ 各科目や日常生活で活用・発揮、活かすことができる ・ 自分自身の知識や理解にとどめず、他の学生に発信する	
(5) 授業手法	① 動画による資料を用いた説明や課題等へのフィードバック ② 学生による学問的論議のやり取り ③ 学生同士の意見交換(グループ・ベアワーク、ディスカッション、ディベート等含む) ④ プレゼンテーション(スピーチ、授業発表等含む) ⑤ 課題解決(プロジェクト学習、課題解決学習、ケーススタディ等含む) ⑥ その他(グループワーク、フィードバック、ミニッツペーパー)	

2 授業計画		5
(6) 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 カイダンス ワークを通してこの後の授業により理解もってもらおう 2 話す・聞くは分からない人が多いので③以降につなげる 3 ③のワーク 4 ④のワーク 5 ⑤について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場） 6 ⑥のワーク 7 ⑦のワーク 8 ⑧について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場） 9 ⑨の自由と振り返り 10 振り返り 11 ⑩について講義（それぞれが情報発信する・意見共有の場） 12 半分までの振り返り、発表準備 13 発表準備 14 発表 15 発表振り返り 	
(7) 授業時間外学習	・その日の授業後やまとめの提出（グループドキュメントやteams）→共有物を読む ・課をまたいでグループワークの場合、コラボレーション・コメント（コメント）やグループで集まるorZOOMなどの作業	

3 成績評価の方法・基準・評価		6
(8) 方法	①小レポート（毎週の振り返り） 講義のまとめ 30 ②グループワーク（グループ内での評価、先生やLAからの評価） 40 ③プレゼンテーション 30	
(9) 基準・評価	小レポート：毎授業の理解を確認 グループワーク：グループワークへの貢献・参加度 グループ内での評価、先生やLAからの評価 プレゼンテーション：他グループからの評価、先生やLAからの評価、自分の発表だけでなく、他の発表を聞く姿勢も評価	
(10) フィードバックの方法	LAの活用+先生からグループワーク後の講評+感想・意見の共有（受講生からのフィードバック）	

4 その他		7
(11) 参考図書	視覚的では考えていない	
(12) 授業外でのオンラインでの意見交換スペース	グループドキュメント、Padlet、Teams、Dropbox、etc...	

5 詳細			8
序記	学習内容と活動	授業中の留意点・評価	
導入 (9回目)	これまでのワークを振り返り（ZOOM等）で行うことにより、非同期コミュニケーションの定着のつらさ（良し悪し）を体験する。	グループワークの役割分担（グループ内の全員がやり取りを続ける）	
展開 (10回目)	振り返りつらさにも理由があるので、2種類のワークを通して異なる振り返りつらさ（表現の仕方や発話量・考え方が異なることによる）を体験する。	同上	
まとめ (11回目)	上記のワークを通して体験したことを共有し、それらも踏まえながら、コミュニケーションにおける振り返りつらさとはどのような事かを理解する。 ※有効なコミュニケーション方法については、12回目で取り扱う。	同上	

5 詳細（導入） 9

https://kuse.jp/2021/10/20/514456/ https://haburaku-chikara.jp/user/ayurokoitai/201912/より引用

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 詳細（導入） 10

https://www.irsudays.com/2013/12/blog-post_195.html
https://www.irsudays.com/blog_education/irsudays_2021.htm
https://www.irsudays.com/2020/04/blog-post_250.htmlより引用

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 詳細（展開） 11

①「伝わる」自己紹介

「伝わりづらさ」& フィードバック

https://www.silhouette-go.com/detail.html?Id=129110&w=4&h=4&e=9&AD%BD%より引用

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

5 詳細（展開） 12

② 情報分断ワーク

情報あり 情報なし

https://heart-quake.com/article.php?m=6431より引用

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

2.8. H 班「過去から学ぶ情報社会～コロナ禍で生まれた誤情報を読み解く～」

尾関 武尊（文学部3年次生）、姫野 美咲（文学部3年次生）、嶋村 宇哲（人材開発課）、濱野 賢治（テクノサポート）、南 萌美（キャリアセンター事務G）

2021年度FD/SD研修プログラム

三者協働でこれからの授業を
設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～

H班 嶋村
南
濱野
尾関
姫野

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University. All Rights Reserved.

